

茨木市教育大綱の体系に沿った第5次茨木市総合計画における施策等評価結果

【総括表】

施策名	総合評価			ページ 番号	取組名	取組評価		
	30	1	2			30	1	2
(1) すべての子どもの育ちを支援する	B	B	B	2	①子どもの健やかな育ちを等しく支援※	b	b	a
					②幼児教育と保育の質と量の充実※	b	b	a
(2) 「生きる力」を育む教育を推進する	A	A	B	5	①「確かな学力」の充実	b	a	a
					②「豊かな心」の醸成	a	b	b
					③「健やかな体」の育成	b	b	b
					④学校支援体制の充実	a	a	b
(3) 魅力ある教育環境づくりを推進する	B	B	B	9	①学校施設の計画的な整備・充実	b	b	b
					②学校・家庭・地域の連携の推進※	b	b	b
(4) 青少年の心豊かなたくましい成長を支援する	B	A	B	12	①青少年健全育成の推進	b	a	b
					②青少年の体験活動の充実※	b	b	b
(5) 生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する	B	B	B	16	①成人の学習の推進	b	b	b
					②公民館活動の推進	b	b	b
					③図書館サービスの充実	b	b	b
(6) 文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する	B	B	C	20	①歴史遺産の保存・継承	b	b	c

※市長部局の事業を含む取組

【評価の見方】

総合評価

- A 施策の方向性に沿って順調に進行している。
すべての取組の評価がaまたはbであり、かつ、5割以上がaである。
- B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。
①すべての取組の評価がaまたはbであり、かつ、5割以上がbである。
②一部の取組の評価がcであるが、5割以上はaまたはbである。
- C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。
A・B・D以外
- D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。
7割以上の取組の評価がdである

取組評価

- a 順調に進行
- b おおむね順調に進行
- c 進行にやや遅れ
- d 進行に大幅な遅れ

**第5次茨木市総合計画
令和2年度施策評価結果
(茨木市教育大綱部分抜粋)**



【 まちの将来像2 】

次代の社会を担う子どもたちを育むまち

施策評価シート				
1 施策の概要				
1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち	
2	施 策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する	
3	対応するSDGs	1貧困をなくそう 2気候をゼロに 3すべての人に健康と福祉を 4質の高い教育をみんなに 16平和と公正をすべての人に		
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	次世代育成支援行動計画に基づき、すべての子ども・家庭の状況に応じた切れ目のない支援を行うことにより、子どもの健やかな育ちを保障するとともに、安心して子育てできる環境を整えます。		
5	評価者等		部 名	補職名・課名
		評価者(部長級)	こども育成部	部 長
		施策主担当課	こども育成部	こども政策課
		施策関係課	子育て支援課、保育幼稚園総務課、保育幼稚園事業課、学務課、学校教育推進課	
6	施策内の取組	2-1-1	いばらき版ネウボラの推進	
		2-1-2	子どもの健やかな育ちを等しく支援	
		2-1-3	幼児教育と保育の質と量の充実	

2 令和2年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。	
2	評価理由(R2年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R2年度末現在の施策の主な課題	
	子育て世代包括支援センターとして、子育て支援と母子保健の一体的な提供に努めてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、一部の共同事業に影響が生じました。妊婦面接時の保護者の同意をもとに、こんには赤ちゃん事業への情報提供が可能となり、効率の良い訪問活動を行うことができました。 ひとり親支援については、養育費確保等支援事業補助制度の実施にあたり、離婚届に「養育費は、大丈夫？」チラシを挟み込み、養育費・面会交流の取り決めの重要性を周知しました。 コロナ禍における障害児福祉サービス提供体制の継続・維持を応援するため、市内事業所に対する感染対策応援給付金の支給や、障害児通所支援事業所等に対するPCR検査費用の助成、学校の臨時休業により放課後等デイサービス等の利用者負担増加分への補助を行いました。児童虐待への対応については、子ども家庭総合支援拠点の設置や家庭児童相談システムの更新など相談支援体制の強化を図りました。今後は、子育て世代包括支援センターとの連携を強化し、一体的な支援に努める必要があります。 奨学金(高等学校等入学支度金)制度については、中学校からの案内配付のほか、広報誌、ホームページ、SNSで制度案内を行うとともに、令和4年4月入学者から2人目以降の支給額を増額します。 公正証書等作成費補助、養育費保証料補助を新たに実施し、おおむね順調に進行していますが、制度内容についてさらなる周知が必要です。 既存私立保育所等の建替による定員増のほか、認定こども園の新設などにより保育の受入体制の確保に努めた結果、待機児童0を達成しました。 保育士確保のために、「茨木市保育士・保育所支援センター」を立ち上げ、保育施設への就職支援を行った結果、61名の保育士等確保につながりました。 また、茨木っ子プランネクスト5.0の初年度として、最重点の取組みである「非認知能力の育成」について、私立を含む、幼稚園・保育園・認定こども園を対象とした合同研修会の開催や各園長会で情報発信を行い、共通理解と連携強化を進めることができました。 以上から、全体としては施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していますが、さらなる制度周知や、子育て世代包括支援センターとして効率的な運営に努めていく必要があることから、総合評価は「B」とします。		課題①	母子保健と子育て支援の連携がまだ不十分なため、利用者にとって切れ目ない支援になるようさらに取組が必要です。
			課題②	児童虐待を予防する観点から、子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点の連携をしっかりと進めていく必要があります。
			課題③	養育費確保等支援事業補助金の申請件数が少ないことから、養育費が支払われず経済的に困窮している方に情報が届くよう、周知に努める必要があります。
			課題④	子ども家庭総合支援拠点として、家庭児童相談支援の専門性を高めるとともに、在宅支援の強化が求められています。
			課題⑤	令和3年度より開始する茨木市保育士奨学金返済支援事業補助金の周知・活用等により、保育士確保数の目標値の達成を目指します。

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施 策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する		

3 施策内の取組の評価

1	取 組	2-1-1	いばらき版ネウボラの推進				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	子育て支援課	課長名	中井 誠
3	関係課	子育て支援課					
4	目 標 (後期基本計画より)	妊娠・出産・子育ての切れ目のないサポートの提供や必要な子育て支援サービスが有効に活用されるなど、安心して子どもを産み育てることができる環境が整っています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	子育て世代包括支援センターとして、子育て支援と母子保健の一体的な提供に努めてきましたが、新型コロナウイルス感染症の影響のため、一部の共同事業に影響が生じました。 妊婦面接時の保護者の同意をもとに、こんにちは赤ちゃん事業への情報提供が可能となり、効率の良い訪問活動を行うことができました。 おおむね順調に進行していますが、子育て世代包括支援センターとして類似事業を整理し、効率的な運営に努めていく必要があることから「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
		妊婦面接の実施率	%	↗	99.8	99.9	100

1	取 組	2-1-2	子どもの健やかな育ちを等しく支援				
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	こども政策課	課長名	東井 芳樹
3	関係課	子育て支援課、保育幼稚園総務課、学務課					
4	目 標 (後期基本計画より)	社会的な支援が必要な子ども・家庭をはじめとする様々な状況にある子どもが健やかに育つための環境が整っています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		a	ひとり親支援として、養育費確保等支援事業補助制度の実施にあたり、離婚届に「養育費は、大丈夫？」チラシを挟み込み、養育費・面会交流の取り決めの重要性を周知しました。 コロナ禍における障害児福祉サービス提供体制の継続・維持を応援するため、市内事業所に対する感染対策応援給付金の支給や、障害児通所支援事業所等に対するPCR検査費用の助成、学校の臨時休業により放課後等デイサービス等の利用者負担増加分への補助を行いました。児童虐待への対応については、子ども家庭総合支援拠点の設置や家庭児童相談システムの更新など相談支援体制の強化を図りました。今後は、子育て世代包括支援センターとの連携を強化し、一体的な支援に努める必要があります。 奨学金(高等学校等入学支度金)制度については、中学校からの案内配付のほか、広報誌、ホームページ、SNSで制度案内を行うとともに、令和4年4月入学者から2人目以降の支給額を増額します。 よって、順調に進行していることから「a」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
		奨学金(高等学校等入学支度金)支給人数	人		130	134	
		相談から支援につながった割合	%	→	100	100	95(各年度)
子育て短期支援事業の利用日数	日	↗	136	115	84(R1)		

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施 策	2-1	すべての子どもの育ちを支援する		

1	取 組	2-1-3	幼児教育と保育の質と量の充実			
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	保育幼稚園総務課	課長名 中路 洋平
3	関係課	保育幼稚園事業課、学校教育推進課				
4	目 標 (後期基本計画より)	待機児童が解消されるとともに、保護者のニーズに応じた質の高い幼児教育・保育が総合的に提供されています。				
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		a	既存私立保育所等の建替による定員増のほか、認定こども園の新設などにより保育の受入体制の確保に努めた結果、待機児童0を達成しました。 保育士確保のために、「茨木市保育士・保育所支援センター」を立ち上げ、保育施設への就職支援を行った結果、61名の保育士等確保につながりました。 また、茨木っ子プランネクスト5.0の初年度として、最重点の取組みである「非認知能力の育成」について、私立を含む、幼稚園・保育園・認定こども園を対象とした合同研修会の開催や各園長会で情報発信を行い、共通理解と連携強化を進めることができました。 よって、順調に進行していることから「a」評価とします。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R1年度 R2年度	目標値(年度)
		待機児童者数	人	↘	23 0	0(R3)
		保育現場に送り出した保育士等の数	人	↗	69 61	60(R3)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学 人間健康学部 准教授 福田 公教			
2	意見等	・「施策の現状と課題」において現状認識は、妥当であろう。とりわけ新型コロナウイルス感染症の影響があったこと、第4期の次世代育成行動計画の初年度ながら、一定の取組の成果が上がっていることから、総合評価「B」は適当であると考え。 ・取組2-1-1の参考指標「妊婦面接の実施率」が新型コロナウイルス感染症の影響下にあってもほぼ達成していることは評価できる。 ・取組2-1-2について、参考指標「子育て短期支援事業の利用日数」が前年度を下回ったのは、新型コロナウイルス感染症の影響が考えられ、それを考慮するとニーズが高まっている施策と考えられる。また、社会的な支援が必要な子ども家庭への施策を進めるとともに、対象者のニーズを探る取組にも期待したい。			

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施 策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する		
3	対応するSDGs	4 質の高い教育をみんなに 			
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	すべての児童・生徒の「生きる力」、すなわち「確かな学力」「豊かな心」「健やかな体」と、その基盤となる「非認知能力」の育成を進め、これからの社会を生き抜く資質・能力を育むことを目指します。また、個人の可能性を最大限引き出すため、学校園をはじめ保育所、関係諸団体が連携して就学前から中学校卒業まで一貫した「きめ細やかで質の高い教育」を保障し、「学びを通じた信頼される学校づくり」を進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	学校教育部	部 長	加藤 拓
		施策主担当課	学校教育部	学校教育推進課	—
		施策関係課	学務課、教職員課、教育センター		
6	施策内の取組	2-3-1	「確かな学力」の充実		
		2-3-2	「豊かな心」の醸成		
		2-3-3	「健やかな体」の育成		
		2-3-4	学校支援体制の充実		

2 令和2年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。	
2	評価理由（R2年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）		R2年度末現在の施策の主な課題	
	「確かな学力」の充実については、全国学力・学習状況調査が中止となり、実績値の比較はできませんでしたが、長期臨時休業期間には、いち早くオンライン授業を配信し、児童生徒の学習機会を確保するとともに、夏休み、冬休みを短縮し授業時数を確保するなど、学びの保障に努めました。課題である、言語力の向上につきましては、「言語力向上プロジェクト」を立ち上げ、モデル校等において実践・研究を進め、公開授業研等を通じて、各学校の取組改善につなげることができました。 「豊かな心」の醸成については、各小中学校においてコロナ禍の影響で不安になりやすい児童生徒に配慮しながら、道徳教育・人権教育など「豊かな心」を醸成する取組を進めることができました。茨木っ子アンケートの中で、「自分の良さを生かし、人の役に立つ人間になりたい」と思う児童生徒の割合が高い結果となりました（91.9％）。 「健やかな体」の育成については、全国体力・運動能力調査が中止となり、前年度との比較はできませんでしたが、体力向上担当者会で、体力向上と保健教育、食育を連携させた取組の意義等を教員に伝達し、コロナ禍で制約のある中、各学校の実情に合わせた取組を推進することができました。市内小学校3年生を対象に実施したアンケートでは、「運動スポーツが好き」という問いに肯定的な回答が88.8％であり、運動に対する高い意欲は継続しています。 学校支援体制の充実については、コロナ禍の中で研修の精査やオンラインでの実施に取り組みました。また、特に不登校支援において、Zoomを使用した茨木っ子オンラインルームを開催し、不登校児童生徒のこころの居場所づくりを進めました。 以上のことから、コロナ禍の影響で前年度の評価指標との比較ができない項目もありますが、施策の方向性に沿って概ね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	引き続き、非認知能力の育成や児童生徒の言語力を育む取組の推進が必要です。
			課題②	個別の支援が必要な児童生徒、不登校・長期欠席児童が増加傾向にあり、その要因への理解を深めること、特性や背景を踏まえた指導を充実させる取組が必要です。
			課題③	コロナ禍による運動不足、生活習慣の乱れ、ストレスの高まりなどが懸念されるため、体力向上と保健教育、食育を連携させ、運動能力だけでなく、心と体の健康への意識など、体力・健康を一体と捉えた取組が必要です。
			課題④	コロナ禍における教職員への研修のあり方を工夫していく必要があります。不登校児童生徒への対応では、学校復帰だけを目的とするのではなく、社会的自立に向けた継続的支援が必要です。
			課題⑤	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち	
2	施 策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する	

3 施策内の取組の評価

1	取 組	2-3-1 「確かな学力」の充実				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名 青木 次郎
3	関係課	教育センター				
4	目 標 (後期基本計画より)	小中学校が連携して学力向上にかかる組織的・計画的な取組を推進しており、児童・生徒は学習習慣を身につけ、知識や技能を活用して学習に取り組み、学ぶ喜びを実感しています。				
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		a	令和2年度は新型コロナ感染拡大による長期臨時休業がありましたが、本市ではいち早くオンライン授業を配信し、児童生徒の学習機会を確保するとともに、夏休み、冬休みを短縮し授業時数を確保するなど、学びの保障に努めました。全国学習状況調査が中止となり、実績値の比較はできませんでしたが、全国学力・学習状況調査の問題を自主的に活用し、課題分析を行い、児童生徒への指導に役立てるなど、各小中学校で学力向上の取組みを進めることができました。また、言語力の育成につきましては、「言語力向上プロジェクト」を立ち上げ、モデル校等において実践・研究を進め、公開授業研等を通じて、各学校の取組み改善につなげることができました。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	さらに、茨木っ子プランネクスト5.0での重点の取組みである非認知能力の育成に向けて、保幼小中管理職、学童保育、保幼小中教職員を対象とした研修会を開催し、非認知能力育成についての理解を深めることができました。また、非認知能力育成につながるツールとして、「キャリアパスポート」と「いま未来手帳」の活用を始めるとともに、年度末に取組みの交流と研修を実施しました。			
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値 R1年度 R2年度
		全国学力・学習状況調査の平均正答率(小学校)		全国を1	↗	1.019 - 1以上(R3)
		全国学力・学習状況調査の平均正答率(中学校)		全国を1	↗	1.029 - 1以上(R3)

1	取 組	2-3-2 「豊かな心」の醸成				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名 青木 次郎
3	関係課					
4	目 標 (後期基本計画より)	一人ひとりの児童・生徒が基本的な倫理観や規範意識を身につけ、学校生活全体の中で自らの大切さや他の人の大切さが認められていることを実感し、安心して学ぶことができています。				
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		b	令和2年度は全国学力・学習状況調査調査が中止となり、実績値はありません。各小中学校において、道徳教育・人権教育など「豊かな心」を醸成する取組みを進め、専門家との連携を図りながら、コロナ禍の影響で不安定になりやすい児童生徒の心に配慮しながら対応することができました。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ	なお、今後の評価指標については、新たに開始した茨木っ子アンケートの回答を基にした数値で比較検証いたします。			
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値 R1年度 R2年度
		自分力(小学校)茨木っ子アンケートより		点	↗	- 8.03 8.1(R3)
		自分力(中学校)茨木っ子アンケートより		点	↗	- 8.05 8.1(R3)

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち	
2	施 策	2-3	「生きる力」を育む教育を推進する	

1	取 組	2-3-3 「健やかな体」の育成				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	学校教育推進課	課長名 青木 次郎
3	関係課	学務課				
4	目 標 (後期基本計画より)	小中学校が連携した体力向上の取組や授業改善、新体力テストの活用を進めたことにより、児童・生徒は、健康への意識が高まり、体力向上の意欲や運動に親しむ機会が増えています。給食では安全安心な地元食材の使用量が向上し、的確なアレルギー対応ができています。				
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		b	令和2年度は全国体力・運動能力調査(小5・中2対象)が中止となり、前年度との比較はできませんでした。異なる学年で参考値となりますが、市内小学校3年生に実施したアンケートでは、「運動スポーツが好き」という問いに肯定的な回答が88.8%であり、運動に対する高い意欲は継続しております。 地場産米の農地面積の減少及び天候の影響による収穫量減が影響し、給食での地元産食材の使用率が減少していますが、地元産の野菜、きのこ、いも類の使用率は同程度を維持し、地元産のみその使用率は増加しています。その結果、全体の地元産食材の使用率の大幅な減少には至りませんでした。 また、食物アレルギーの対応範囲につきましては、令和3年度中の乳・乳製品の除去対応に向けて取り組みを進めています。さらに、中学校給食につきましては、民間活力導入可能性調査等を踏まえ、議論を重ねたうえで基本計画を策定し、最適な事業手法として、PFI手法の採用を決定するなど、センター方式による全員給食に向けて、着実に取り組んでいます。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R1年度 R2年度	目標値(年度)
		新体力テスト体力合計点(小・中平均)	全国平均との比率	↗	0.984 -	1以上(R3)
		児童生徒意識調査(運動スポーツが好き)	肯定的な意見の割合(%)	↗	87.1 -	90(R3)
		基本とする食物アレルギー対応範囲の拡充	種類	↗	2 2	4(R3)

1	取 組	2-3-4 学校支援体制の充実				
2	主担当課	部名	学校教育部	課名	教育センター	課長名 新川 正知
3	関係課	教職員課				
4	目 標 (後期基本計画より)	教職員は、最新の技術や情報をもとに授業改善に取り組んでいます。丁寧な相談活動による状況把握と分析の結果、学校と連携した適切な指導・支援が行われ、相談者の学校生活への不安が軽減されています。さらに、教育委員会による支援や学校の業務改善が進むことで、教員の時間外勤務が減少し、児童・生徒に向き合う時間が確保され、日々の教育活動の充実につながります。				
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		b	コロナ禍の影響により、研修内容を精査したり、オンラインを活用する等により研修を実施しました。集団づくりを基盤にした学校づくり、支援教育、情報モラル、授業力づくり、授業力向上研修を実施しました。 相談業務については、事務事業の効率化や見直しとして、日々の相談記録の簡略化を図り相談時間の確保と業務改善を図りました。また、コロナ禍の影響から来所して相談することに不安を感じる相談者に対しては、電話による相談を実施し、相談者のニーズに応えるよう努めました。 不登校支援については、定期的な学校訪問と、市内の不登校児童生徒の実態把握に努め、各関係機関との連携により、継続的に児童生徒や保護者支援を行いました。また、オンラインを使用した新たな不登校支援の実施により、不登校児童生徒のこころの居場所づくりを進めました。 出退勤管理システムにおいて、安定的な運用を進めながら、教職員の働き方について、管理職が中心となって把握し、教職員の健康管理、働き方の見直しに活用できました。来年度、現行システムの更新を控え、これを機に、働き方の意識改革を加速するべく、教職員一人ひとりが自身の出退勤データを活用できるシステムを検討・選定を進めることができました。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R1年度 R2年度	目標値(年度)
		教職員1人あたりの研修参加回数	回	↗	3 1	3(R3)
		相談員一人あたりの相談件数 (面接・電話・言語・不登校・発達相談)	件／人	→	85 90	90(R3)
		不登校児童・生徒支援室への入級希望者数	件	→	31 33	40(R3)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学 人間健康学部 准教授 福田 公教
2	意見等	・「施策の現状と課題」において、総合評価は「A」とされている。その理由として、コロナ禍であってもオンラインを活用した取組を評価しているが、指標となる調査が実施されずそもそも評価が難しいことや長期臨時休校がおこなわれたことやソーシャルディスタンスを取りながらの学習となったことなど、政策担当者の如何に関わらず、子どもにネガティブな影響があったであろう事への評価が必要である。 ・取組2-3-2「豊かな心」の醸成は、コロナ禍にあって不安になりやすい児童生徒への対応として重要な施策といえる。そのなかで具体的な取組が分かるような評価が必要となる。また、不登校・長期欠席児童が増加傾向であり、それに対応した専門職の動きなども評価の対象としていただきたい。 ・取組2-3-3の「健やかな体」の育成については、指標となる新体力テスト体力合計点が明らかでないことにより評価が難しいが、コロナ禍において、子どもの運動スポーツ経験が十分に行えなかったであろう事は想像に難くない。そこへの対応と評価が求められる。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち			
2	施 策	2-4	魅力ある教育環境づくりを推進する			
3	対応するSDGs	4 質の高い教育をみんなに 17 パートナーシップで目標を達成しよう				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	それぞれの学校において、子どもたちが良好で快適な環境のもとで教育を受けることができる環境を整備します。 また、地域における教育コミュニティづくりが進むとともに、子どもたちが安全に安心して過ごすことができる環境を整えます。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	教育総務部	部 長	小田佐依子	
		施策主担当課	教育総務部	社会教育振興課	—	
		施策関係課	学童保育課、施設課、学校教育推進課、教育センター			
6	施策内の取組	2-4-1	学校施設の計画的な整備・充実			
		2-4-2	学校・家庭・地域の連携の推進			

2 令和2年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由 (R2年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R2年度末現在の施策の主な課題		
	学校施設の整備については、国の補助金等を効果的に活用し、エレベーター設置、便所改修及び外周塀改修を実施し、安全・安心で快適な学校環境の整備を図りましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた工事の一部を実施することができず、便所改修について、目標にやや遅れが生じました。また、GIGAスクール構想実現のため、高速大容量の通信ネットワークと1人1台端末の整備を行ったことにより、授業での活用など、ICTの取組を推進する環境が整いました。 放課後子ども教室については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できませんでしたが、研究会を開催しスタッフ等からの意見を聴取するとともに、関係課とも連携し、本市独自のガイドラインを作成しました。家庭教育関連事業についても、講座実施回数や参加者数等は大きく減少しましたが、オンライン活用等コロナ禍でも可能な手法を検討し一部取り入れました。 学童保育室については、学校の特別教室との併用を図るなど場所の確保に努め、一斉受付時における待機児童は出ていませんが、一斉受付後における申請者が多数あり、待機児童数は増えています。また、夏季休業期間預かり事業を11か所においてモデル実施しましたが、休業期間が短縮したため、利用者は当初申込者数から大幅に減少しました。 見守り活動や通学路の安全点検については、子どもの安全見守り隊交付金による活動支援と通対協による安全点検を実施しました。 以上のことから、実績値としては下降したものの、コロナ禍においても工夫して事業を進行し、課題解決に向けた取組ができたとして「B」評価とします。		課題①	学校施設の整備には、多額の経費を要するため、社会情勢の変化を把握しながら、国庫補助金を獲得するとともに経費の平準化を図り、計画的に進める必要があります。	
			課題②	整備した1人1台タブレット端末を児童生徒が効果的に活用できるよう、教員の指導力の向上が必要です。	
			課題③	放課後子ども教室については、学年を超えての集団活動になるため、コロナ禍での実施の可否を適切に判断する必要があります。家庭教育関連事業については、ICT活用等新しい生活様式を踏まえた適切な学習機会の提供と、保護者同士のつながりを促す取組を引き続き進める必要があります。	
			課題④	学童保育室については、今後とも場所の確保が課題であり、また、4年生以上の学年拡大に向けて検討を進める必要があります。	
			課題⑤	見守り活動や通学路の安全点検については、幅広い世代の方に子どもの安全見守り隊に参加していただく必要があります。	

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施 策	2-4	魅力ある教育環境づくりを推進する		

3 施策内の取組の評価

1	取 組	2-4-1	学校施設の計画的な整備・充実			
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	施設課	課長名 浅野 貴士
3	関係課	教育センター				
4	目 標 (後期基本計画より)	学校施設・設備等が、計画的に更新されることにより、利便性や機能性を持つ、快適な教育環境で効果的な児童・生徒の学習が行われています。				
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		b	学校施設の整備については、国の補助金等を効果的に活用し、エレベーター設置、便所改修及び外周塀改修を実施し、安全・安心で快適な学校環境の整備を図ることができました。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、当初予定していた工事の一部を実施することができず、便所改修について、目標にやや遅れが生じました。 GIGAスクール構想実現のため、高速大容量の通信ネットワークと1人1台端末の整備を行いました。これにより、授業での活用など、1人1台環境を生かしたICTの取組みを推進する環境が整いました。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値 R1年度 R2年度
		2系統目の便所改修工事の完了の率		%	↗	16 23 100 (R6)
		授業でICT機器を活用する教員の率		%	↗	86 80 85 (R2)

1	取 組	2-4-2	学校・家庭・地域の連携の推進			
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名 松本 栄子
3	関係課	学童保育課、学校教育推進課				
4	目 標 (後期基本計画より)	学校・家庭・地域が互いに情報共有し、それらが連携して教育コミュニティづくりを進めています。また、子どもたちの安全で安心な居場所づくりや地域での見守り体制が整っています。				
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		b	放課後子ども教室については、新型コロナウイルス感染症の影響により実施できませんでしたが、研究会を開催しスタッフ等からの意見を聴取するとともに、関係課とも連携し、本市独自のガイドラインを作成しました。家庭教育関連事業についても、講座実施回数や参加者数等は大きく減少しましたが、オンライン活用等コロナ禍でも可能な手法を検討し一部取り入れました。 学童保育室については、学校の特別教室との併用を図るなど場所の確保に努め、一斉受付時における待機児童は出ていませんが、一斉受付後における申請者が多数あり、待機児童数は増えています。また、夏季休業期間預かり事業を11か所においてモデル実施しましたが、休業期間が短縮したため、利用者は当初申込者数から大幅に減少しました。 見守り活動や通学路の安全点検については、子どもの安全見守り隊交付金による活動支援と通対協による安全点検を実施しました。 以上のことから、コロナ禍においても工夫し事業を進行できたとして「b」評価とします。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値 R1年度 R2年度
		放課後子ども教室延べ実施日数		日	↗	2,562 0 800 (R3)
		家庭教育関連事業の参加者数		人	→	3,631 1,054 1,200(R3)

学童保育待機児童数		人	↘	10 25 0 (R5)
-----------	--	---	---	--------------

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学 人間健康学部 准教授 福田 公教
2	意見等	・「施策の現状と課題」においてコロナ禍における施策の現状認識が適切になされており、実施できなかった事業があるものの、一定の取組の成果があがっていることから、総合評価「B」は妥当であるとする。 ・取組2-4-1における「授業でICT機器を活用する教員の率」がコロナ禍にありながら、前年を下回ったことは、GIGAスクール構想により1人1台環境が整備されたことを十分に生かすには課題となる。整備と合わせて活用方法も検討する必要がある。 ・取組2-4-2では、学童保育待機児童数が増加している。コロナ禍においても一定の工夫をしながら事業を展開したことは評価できるものの、そもそも事業を利用できない児童がいることを厳しく評価する必要があるのではないだろうか。

施策評価シート					
1 施策の概要					
1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施 策	2-5	青少年の心豊かなたくましい成長を支援する		
3	対応するSDGs	1貧困をなくそう 4質の高い教育をみんなに 17パートナーシップで目標を達成しよう			
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	全ての青少年が様々な地域活動や体験活動に参加するとともに、適切な支援を受けることにより、心豊かにたくましく成長することができるよう取組を進めます。			
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名
		評価者(部長級)	教育総務部	部 長	小田 佐衣子
		施策主担当課	教育総務部	社会教育振興課	—
		施策関係課	こども政策課		
6	施策内の取組	2-5-1	青少年健全育成の推進		
		2-5-2	青少年の体験活動の充実		
		2-5-3	若者の自立支援		

2 令和2年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。	
2	評価理由(R2年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R2年度末現在の施策の主な課題	
	青少年健全育成の推進に関しては、重点目標「大人が気づいて声をかけあう関係づくり」を継続し、行事の自己点検アンケートの記入を促すなど目標を意識していただきましたが、令和2年度はコロナ禍で行事数が減少し、青少年が行事の一部を担当した割合が令和元年度からの比較で約6%減少しました。一方、効果を生み出した行事を好事例として表彰する「ほっとけん！アワード」を実施し、団体の活動意欲の向上や行事の見直しを促すことができました。 青少年の体験活動の充実に関しては、コロナ禍において、上中条青少年センター主催事業の9月までの中止や実施の際の参加定員制限を行い、また青少年野外活動センターでの全ての主催事業を中止したことで、これら施設の利用者数は減少しました。一方で、「少人数・短時間」を基本としたキャンプの実施により、ファミリー層等の小グループの利用に繋がるとともに、感染対策への安心感をもってもらうことができました。 ユースプラザでは、オンラインを活用したふれあい・交流サロンを実施することで、コロナ禍であっても生きづらさを抱えた子ども・若者とながることができたほか、茨木ひきこもり女子会を開催し、ひきこもり状態の女性を孤立させないための居場所の提供と相談場所の周知を図りました。 こども会については加入率の低下が進む中、コロナ禍での活動が難しい状況であったため、新しい生活様式等を踏まえた活動につなげるよう、キャンプカウンセラーによる「こども会レクリエーションのつどい」を行いました。 若者の自立支援に関しては、「ひきこもり支援ガイドブック」を作成し、不登校やひきこもり当事者と関わる全ての人の支援力底上げが可能になりました。 子ども・若者支援地域協議会では、令和元年度から実施しているひきこもり部会を福祉分野だけでなく、教育や就労等分野ごとに開催したことで、多角的な支援の在り方についてより具体的な方法が検討できました。 また、教育・福祉施策の現状と課題を共有し、生きづらさの早期解消と中学校在学中・卒業後の支援方策を検討・実施するため、教育・福祉連携会議を実施していましたが、改めて実施要領を定めることで、個々のケースに対する支援策の検討が可能になりました。 以上から、新型コロナウイルス感染症の影響はあるものの、<u>少人数・短時間、オンラインの活用</u>など感染対策を講じて各取組を実施したことから、施策の方向性に沿っておおむね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	SNS等を起因とするトラブルから青少年を保護するために最新の情報を青少年の指導者や保護者に向けて周知し啓発することが必要です。
			課題②	コロナ禍において、地域での取組を通して、大人が子どもに声を掛けられるような顔の見える関係づくりを進めるための工夫が必要です。
			課題③	こども会については、育成者の負担軽減等を図るため、コロナ禍での新しい生活様式等を踏まえた活動につながる機会を、市こども会育成連絡協議会と連携して提供していく必要があります。
			課題④	ユースプラザにおいて、生きづらさを抱える子ども・若者の状態改善が進むよう、更に五感を通じた多様な体験ができる機会の充実を図る必要があります。
			課題⑤	支援を要する子ども・若者の早期困難解消を目指すため、ユースプラザスタッフや保護者、学校教員等に子ども・若者との関わり方など支援力の向上を図る必要があります。

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち			
2	施 策	2-5	青少年の心豊かなたくましい成長を支援する			

3 施策内の取組の評価

1	取 組	2-5-1	青少年健全育成の推進			
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名 松本 栄子
3	関係課					
4	目 標 (後期基本計画より)	各地域で青少年を対象にした行事等が活発に実施され、地域の方との関わりが増えることにより、地域の子どもを地域で見守り、育てるという市民意識が醸成されています。				
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		b	青少年健全育成運動重点目標「大人が気づいて声をかけあう関係づくり」を継続し、青少年健全育成行事の計画時と実施後に自己点検アンケートの記入を促すなど目標を意識していただきましたが、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により行事数が減少し、結果、青少年が行事の一部を担当した割合が令和元年度から令和2年度の比較で約6%減少しました。一方で、効果を生み出した行事を好事例として表彰する「ほっとけん！アワード」を実施し、団体の活動意欲の向上や行事の見直しなどの工夫を積極的に行うことを促すことができました。以上のことから、コロナ禍においても工夫し事業を進行できたとして「b」評価とします。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R1年度 R2年度	目標値(年度)
		茨本市青少年健全育成事業補助金交付団体数	団体	→	85 52	80(R3)
		自己点検アンケート(青少年が行事の一部を担当:計画時)	%	→	81 75	80(R3)

1	取 組	2-5-2	青少年の体験活動の充実			
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名 松本 栄子
3	関係課	こども政策課				
4	目 標 (後期基本計画より)	青少年の活動拠点である上中条青少年センターや青少年野外活動センターのほか、ユースプラザなどでの体験活動を通して自尊感情や生きる力を高め、自分の将来に対して夢や希望を持つことができるような集団活動が活発に展開しています。				
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		b	上中条青少年センターでは新型コロナウイルス感染症の影響により9月まで主催事業を中止し、また、3密を避けるため実施の際は参加定員を例年の半数としたことなどにより、令和元年度より参加者は激減しました。青少年野外活動センターにおいても、全ての主催事業を中止したことにより利用者数は減少しましたが、「少人数・短時間」を基本としたキャンプの実施により、ファミリー層等の小グループの利用に繋がるとともに、感染対策への安心感をもってもらうことができました。 ユースプラザでは、オンラインを活用したふれあい・交流サロンを実施することで、コロナ禍であっても生きづらさを抱えた子ども・若者とつながることができたほか、茨木ひきこもり女子会を開催し、ひきこもり状態である女性を孤立させないための居場所の提供と相談場所の周知を図りました。 こども会については加入率の低下が進む中、コロナ禍での活動が難しい状況であったため、新しい生活様式等を踏まえた活動につなげるよう、キャンプカウンセラーによる「こども会レクリエーションのつどい」を行いました。 以上のことから、コロナ禍においても工夫し事業を進行できたとして「b」評価とします。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値 R1年度 R2年度	目標値(年度)
		上中条青少年センター主催事業参加者数	人	↗	1,449 319	700(R3)
		こども会加入率	%	→	34.4 30.8	30(R3)

		青少年野外活動センター年間利用人数	人	↗	10,240 2,615	6,000(R3)
--	--	-------------------	---	---	--------------	-----------

1	まちの将来像	2	次代の社会を担う子どもたちを育むまち		
2	施 策	2-5	青少年の心豊かなたくましい成長を支援する		

1	取 組	2-5-3	若者の自立支援						
2	主担当課	部名	こども育成部	課名	こども政策課	課長名	東井 芳樹		
3	関係課								
4	目 標 (後期基本計画より)	支援が必要な時にどこに相談すればよいか、様々な支援者・事業者・市民が知っています。それぞれの状況に応じた支援を受け、自立に向けてステップアップしています。相談者・支援者ともに負担の少ない機関連携が行われ、若者の自立に向けた切れ目のない支援が実現しています。							
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		b	「ひきこもり支援ガイドブック」を作成し、不登校やひきこもりの当事者と関わるすべての人の支援力の底上げが可能になりました。 子ども・若者支援地域協議会では、令和元年度から実施しているひきこもり部会を福祉分野だけでなく、教育や就労等分野ごとに開催したことで、多角的な支援の在り方についてより具体的な方法が検討できました。 また、教育と福祉の各施策の現状と課題を共有し、生きづらさの早期解消と中学校在学中及び卒業後の支援に向けて取り組める方策を検討・実施するため、教育・福祉連携会議を実施していましたが、改めて実施要領を定めることで、個々のケースに対する支援策の検討が可能になりました。 以上のことから、今後更なる支援力を上げていくため「b」評価とします。						
			a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ						
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							R1年度	R2年度	
		スモールステップの段階(自立度)アップ率《改善率》			%	↗	95.7	96	95

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	関西大学 人間健康学部 准教授 福田 公教			
2	意見等	「施策の現状と課題」において、総合評価は、「B」とされている。しかしながら、令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により9月まで実施を中止した事業があるなど、おおむね順調とはいいいがたい社会状況であった点を率直に評価することが必要ではないだろうか。 ・取組2-5-2における「上中条青少年センター主催事業参加者数」や「青少年野外活動センター年間利用者人数」は新型コロナウイルス感染症の影響により大きな落ち込みを見せており、致し方ない数字であろう。他方、オンラインを活用し、コロナ禍にあっても生きづらさを抱えた子ども・若者とのつながりを作ることができたのは、成果であり、今後も多様な体験活動の充実を期待したい。 ・取組2-5-3「若者の自立支援」については、各施策の推進に当たって教育と福祉の連携を実質化する取組がおこなわれており、評価できるとともに今後、教育と福祉さらには、産業界ともつながりながら、若者の自立支援を推進されることが望まれる。			

【 まちの将来像3 】

みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する			
3	対応するSDGs	4 質の高い教育をみんなに 				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	本市の生涯学習に関する取組の基本となる計画を策定するとともに、市民、行政、教育機関、企業等との連携により、社会的な課題や市民ニーズに対応した多様な学習の場や機会、情報などを提供し、市民の主体的な生涯学習活動を促します。 社会教育については、学校教育との連携を図りながら、これからの時代に求められる成人の学習や、公民館活動の推進、図書館の機能の充実を図ります。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦	
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—	
		施策関係課	社会教育振興課、中央図書館			
6	施策内の取組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備			
		3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進			
		3-1-3	成人の学習の推進			
		3-1-4	公民館活動の推進			
		3-1-5	図書館サービスの充実			

2 令和2年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	B	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。		
2	評価理由(R2年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等)		R2年度末現在の施策の主な課題		
	生涯学習推進体制の整備については、新型コロナウイルス感染症の影響により、きらめき講座をはじめとする主催講座やイベントが中止・延期となったことに伴い、生涯学習の機会が減少したが、一部講座を動画配信にて実施したことや、会場収容率の制限や感染症対策を実施した対面でのイベントなど、アフターコロナを見据えた新たな手法にて生涯学習の提供を行いました。 生涯学習の普及啓発の推進については、生涯学習情報誌「Next Stage」の情報掲載数において、新型コロナウイルス感染症の影響により、各課の講座等が中止されたことに伴い、情報掲載数が減少したが、引き続き市ホームページやきらめきFacebook等で情報発信を行いました。 成人の学習の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響により、市民の自主的・主体的な学習活動や社会参加を支援する講座の参加者数は減少したが、識字日本語教室事業においては、新しい生活様式に対応するため、オンラインや通信添削等の学習方法を取り入れました。 公民館活動の推進については、新型コロナウイルス感染症の影響により、公民館講座等の主催事業を中止したことに伴い、受講者数及び講座回数が減少したが、地域の実情に合わせた講座等は、新しい生活様式を踏まえ、「手作りマスク」の講習会等を実施しました。 図書館サービスの充実については、新型コロナウイルス感染症の影響により一時期休館する中で、来館せずに自宅で利用できる電子書籍を導入、HPにリンク集を作成するなど、資料・情報の提供に努めました。また一部利用を制限した開館に際しても、子どもの読書活動推進に関わる人材育成講座のオンライン配信や、3密を避けたおはなし会・工作行事の実施など、創意工夫を図った図書館サービスを提供しました。1月には図書館システムの更新を行い、よりわかりやすい図書館情報の提供に努め、水尾・穂積図書館では予約資料受取コーナーを設置し、市民の利便性向上に努めました。 以上から、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、施設の臨時休館やイベント等中止の状況を考慮し、施策の方向性として概ね順調に進行していると判断し、総合評価は「B」とします。		課題①	生涯学習施策の推進に向けて、ウィズコロナ・アフターコロナを見据えた、(仮称)茨木市生涯学習推進計画の策定及び推進を行う必要があります。	
			課題②	生涯学習の普及啓発推進のため、ホームページやSNS等を活用した情報発信を積極的に行うとともに、情報機器の取り扱いに不慣れな人への取り組みが必要です。	
			課題③	成人の学習の推進に向けて、識字・日本語教室事業において、感染症対策を講じた上で、受講希望者の増加に対応できる実施方法等を引き続き検討するとともに、指導者の増員及びスキルアップに取り組む必要があります。	
			課題④	公民館活動の推進に向けて、公民館講座等の実施方法について、新しい生活様式を踏まえ工夫する必要があります。	
			課題⑤	中条図書館の円滑な移転に向け、継続して準備を進めるとともに、新施設の特徴を活かした運営や連携を検討する必要があります。	

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち	
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する	

3 施策内の取組の評価

1	取 組	3-1-1	生涯学習推進体制の整備						
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子		
3	関係課								
4	目 標 (後期基本計画より)	生涯学習施設とあらゆる機関が連携し、多様な生涯学習の機会が提供されています。生涯学習の中で培った豊富な知識や技術を活用する機会が充実し、自己実現やまちづくり活動などの社会参加にいかされています。							
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)						
		a	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、主催講座の中止や延期措置を講じたため、生涯学習の機会の提供が減少した。しかし、ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、対面講座を基本としたきらめき講座等から、一部YouTubeを活用した動画配信の実施、各種イベント等では会場収容率や感染症対策を講じながら実施する等、新たなスタイルでの講座等を実施した。						
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ							
		参考指標			単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
							R1年度	R2年度	
		大学連携講座受講者数			人	↗	3,292	1,250	1,000 (R3)
		講座の動画配信数			本	↗	-	5	17 (R3)
		天文観覧室(プラネタリウム)利用者数			人	↗	9,873	2,475	14,500 (R3)

1	取 組	3-1-2	生涯学習についての普及啓発の推進					
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子	
3	関係課							
4	目 標 (後期基本計画より)	生涯にわたって学び成長し続けることで、新たな時代に対応し快適で豊かな人生が送れることにつながると多くの人が理解しています。多くの市民がいつでも自由に学習の場や機会を選択して、楽しく学ぶことができるよう情報提供が行われています。						
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)					
		b	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、各課の講座等が中止されたことに伴い、情報掲載件数が減少したが、引き続き生涯学習情報誌「Next Stage」を紙媒体とホームページにおいて情報発信を行いました。また、市ホームページやフェイスブック他、きらめきホームページにて、より多くの市民が生涯学習機会の情報を得ることができるよう努めました。					
			今後、ICTを活用した情報提供が増えるに伴い、機器の取り扱いに不慣れな人への講習会の実施などの対応が課題である。					
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ						
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
						R1年度	R2年度	
		Next Stage情報掲載数		件	↗	536	345	410(R3)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち	
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する	

1	取 組	3-1-3	成人の学習の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本 栄子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	成人が学習意欲をもって自己啓発に励み、充実した日常生活を送るとともに、学習成果を社会へ還元し、地域社会の連帯、活性化につながるよう、組織的な教育活動が充実しています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	市民の自発的・主体的な学習活動や社会参加を支援するため、新型コロナウイルス感染症対策を講じて各種講座を企画しましたが、感染症拡大により中止した講座もあり、参加者数は減少しています。 識字・日本語教室事業については、各教室において、オンラインや通信添削等感染症対策を講じた学習方法を取り入れ、実施することができました。 以上のことから、コロナ禍においても工夫し事業を進行できたとして「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
		社会教育関連講習講座の参加者数	人	→	1,180	993	1,200(R3)

1	取 組	3-1-4	公民館活動の推進				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	社会教育振興課	課長名	松本 栄子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	住民が安心して豊かに暮らせる地域づくりのため、学習機会や情報が提供されています。それぞれの地域性をいかした地域づくり活動が活性化するための支援が充実しています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、9月末まで公民館講座等の主催事業を中止したことにより、受講者数、講座等開講数は減少しました。現代的課題・地域課題に向けた取組として、読み聞かせや地域の歴史など地域の実情に合わせた講座等は、昨年に比べ大幅な減少となりましたが、コロナ禍においても、「手作りマスク」の講習会の実施など、新しい生活様式を踏まえ、取組を行ったことから、おおむね順調に進行できたとして、「b」評価とします。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
		小学校区公民館講座受講者数	人	↗	2,450	1,674	2,300(R3)
		小学校区公民館講座等開講数	講座等	↗	400	227	230(R3)
講座等開講数のうち、現代的課題・地域課題の解決に向けた取り組みによるもの	回	↗	72	12	63(R3)		

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-1	生涯学習の機会を増やし情報提供を充実する

1	取 組	3-1-5	図書館サービスの充実				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	中央図書館	課長名	吉田 典子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	地域の情報拠点として、必要な情報を得ることができ、調べものを行うなど、仕事や生活上の課題を解決するために利用されています。 乳幼児から高齢者まで、読書活動の推進が図られ、市民の暮らしに役立つ図書館サービスが提供されています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		b	新型コロナウイルス感染症の影響により一時期休館する中で、来館せずに自宅で利用できる電子書籍を導入、HPにリンク集を作成するなど、資料・情報の提供に努めました。また一部利用を制限した開館に際しても、子どもの読書活動推進に関わる人材育成講座のオンライン配信や、3密を避けたおはなし会・工作行事の実施など、創意工夫を図った図書館サービスを提供しました。1月には図書館システムの更新を行い、よりわかりやすい図書館情報の提供に努め、水尾・穂積図書館では予約資料受取コーナーを設置し、市民の利便性向上に努めました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
		資料貸出点数	点	↗	3,526,464	3,063,456	3,500,000 (R3)
		蔵書冊数	冊	→	1,245,851	1,258,319	1,250,000 (R3)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学 文学部 特任教授 今西 幸蔵
2	意見等	・コロナ禍のなかでもICTを活用した事業実施などの工夫があり、さらに可能な限りで対面による講習会やプログラムが実施されており、後期基本計画による施策の基本方向をふまえた取組の現状は、十分に総合評価「B」に値するものと思われる。 ・3-1-1の取組では、コロナ禍のもとで参考指標の目標値を上回る実績があること、コロナ後の新たなスタイルの講座が案出されようとしていること、さらにデジタルディバイド対策としての講習会の実施など、市民を支援する取組の実施を評価する。 ・計画にあげられている他機関との具体的・実際的な連携の推進という課題については、市の評価からはよく読み取れなかった。まずは生涯学習センターを核として全庁的に有機的な連携を進めることや、公民館活動とのさらなる連携が必要であると思われる。 ・図書館においては、電子図書の購入や子どもを対象とした講座のオンライン配信等により、状況に見合った事業が適切に取り組まれていることと、資料貸出点数が計画数に達していないとはいえ、市民の学びの意欲が衰えていないと思われる。関係者の努力があるのであろう。

施策評価シート

1 施策の概要

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する			
3	対応するSDGs	4 質の高い教育をみんなに 11 住み続けられるまちづくりを				
4	施策の方向性 (後期基本計画より)	文化振興ビジョンに基づき、市民の主体的な文化活動や交流を支援するとともに、子どもたちへの多様なアプローチを進めるなど、新しい担い手の発掘と育成を図ります。また、歴史遺産の保存と活用を推進し、拠点施設の機能充実を図り、市民の郷土愛を育むことで、歴史文化遺産を発展的に継承します。				
5	評価者等		部 名	補職名・課名	氏 名	
		評価者(部長級)	市民文化部	部 長	上田 雄彦	
		施策主担当課	市民文化部	文化振興課	—	
		施策関係課	市民会館跡地活用推進課、歴史文化財課、中央図書館			
6	施策内の取組	3-3-1	多様な主体の協働による文化のまちづくり			
		3-3-2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり			
		3-3-3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成			
		3-3-4	歴史遺産の保存・継承			
		3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成			

2 令和2年度末現在の施策の現状と課題

1	総合評価	C	A 施策の方向性に沿って順調に進行している。 B 施策の方向性に沿っておおむね順調に進行している。 C 施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じている。 D 施策の方向性に沿った進行に大幅な遅れが生じている。	
2	評価理由（R2年度の主な成果、総合評価に影響を与えた外的な要因等）		R2年度末現在の施策の主な課題	
	令和2年度には、市民との協働による文化のまちづくりとして、創意工夫した取組を募集する提案公募型公益活動支援事業補助には、9件の応募がありました。 文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくりとして、新型コロナウイルスの影響で、多くの事業が中止となったため、文化振興イベント参加者数、市立ギャラリー入場者数が大きく減少しましたが、コロナ禍でも開催できる事業として新たに映像作品のコンクール「茨木映像芸術祭」を実施し、市民が文化芸術に触れる機会を提供しました。市民会館跡地エリアについては、新施設及び芝生広場の設計業務を進めたほか、各機能についての運営方針や管理手法等についてまとめた管理運営計画の作成を進めました。 未来へ向けた文化芸術の担い手の育成として、コロナ禍の対応として、新たに工作動画の配信やあそびのレシピの配布を行い、子どもたちが在宅で創作活動に取り組む支援を行いました。 歴史遺産の保存・継承については、新型コロナウイルスの影響で、文化財資料館テーマ展、史跡郡山宿本陣の公開が中止となるなど、文化財資料館入館者数は大きく落ち込みました。一方で、キリシタン遺物史料館企画展「ザビエル・ストーリー」は、メディアに取り上げられるなど一定の成果を上げました。また、歴史的建造物の調査成果をまとめた報告書（寺院編）を刊行いたしました。埋蔵文化財発掘調査により出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しております。 郷土への愛着心とブランド形成として、新型コロナウイルスの影響による臨時休館や展示・講座の中止に伴い、川端康成文学館の入館者数は大きく減少しました。「川端康成が学んだ教育のまち茨木」のPRに向けて、「川端康成青春文学賞」の第2回作品募集を開始しました。 以上から、新型コロナウイルスの影響によって、施策の方向性に沿った進行にやや遅れが生じていると判断し、総合評価は「C」とします。		課題①	新施設を見据えて、文化振興ビジョンの改定や文化振興財団のあり方について検討を進める必要があります。
			課題②	市民総合センターの老朽化が進んでおり、計画的に予防保全を行う必要があります。
			課題③	若い世代が文化芸術に触れることができる環境のさらなる充実が必要です。
			課題④	文化財所有者の方に文化財保護の取組に対する理解を深めていただけるよう働きかけていくとともに、本市にのこる文化財の魅力をひきだす調査・研究を進め、その成果をまとめていく必要があります。
			課題⑤	川端康成ゆかりのまちであることを市内外に積極的に周知していくほか、文学館に足を運んでもらえるような魅力的な企画や展示を実施する必要があります。

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち			
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する			

3 施策内の取組の評価

1	取 組	3-3-1	多様な主体の協働による文化のまちづくり			
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 今西 雅子
3	関係課					
4	目 標 (後期基本計画より)	市民の多様性、自主性を尊重することによる多様な主体の協働や、文化振興財団、文化芸術団体、大学等との連携により、文化芸術活動が活性化しています。				
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		C	新型コロナウイルスの影響で、多くの事業を中止することになりましたが、美術協会や文化振興財団との協働により、コロナ禍でも開催できる事業として新たに映像作品のコンクール「茨木映像芸術祭」を実施しました。 また、新型コロナウイルスによる市民の不安やストレス緩和の一助とするため、創意工夫した取組を募集した提案公募型公益活動支援事業補助には、9件の応募がありました。 今後は、withコロナ時代の文化事業のあり方について研究を行い、関係団体と連携を図ります。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値 R1年度 R2年度
		市が他の主体と協働・連携して実施する事業数		件	↗	16 5 20(R6)
		提案公募型公益活動支援事業補助申請件数		件	↗	8 9 8(R6)

1	取 組	3-3-2	文化芸術とふれる・感じる・つながる「場」づくり			
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名 今西 雅子
3	関係課	中央図書館、市民会館跡地活用推進課				
4	目 標 (後期基本計画より)	様々な場所で文化と身近にふれることのできる環境を整備し、障害の有無にかかわらず、市民が文化芸術を鑑賞、参加、創造する機会が充実しています。 また、高齢者や子育て世代、若者、障害者、外国人など、それぞれの文化芸術ニーズに応える事業を行うことにより、市民誰もが、気軽に文化芸術とふれる・感じる・つながる環境が整っています。				
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)			
		C	市民会館跡地エリアについては、新施設及び芝生広場の設計業務を進めたほか、各機能についての運営方針や管理手法等についてまとめた管理運営計画の作成を進めました。 音楽活動や美術作品の創作活動など、市民の活発な文化芸術活動を支えるため、鑑賞や発表の機会を確保するとともに、適宜、文化施設の修繕を行いました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で、文化振興イベントの入場者数は553人と昨年度を下回り、市立ギャラリーの入場者数も8,748人に減少していますが、コロナ禍でも実施できる新たな取組として、映像作品のコンクール「茨木映像芸術祭」を開催しました。 今後は、withコロナ時代の文化事業のあり方について研究を行います。			
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ				
		参考指標		単位	めざす方向性	実績値 R1年度 R2年度
		市立ギャラリー入場者数		人	↗	23,517 8,748 16,000(R6)
		文化振興イベント参加者数		人	↗	16,123 553 24,000(R6)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち	
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する	

1	取 組	3-3-3	未来へ向けた文化芸術の担い手の育成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	文化芸術の教育現場による活用や、若手芸術家の育成などにより、次の世代が、未来に向かって育っています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		C	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、こどもと保護者を対象とした講座やワークショップが実施できませんでしたが、コロナ禍の対応として、新たに工作動画の配信やあそびのレシピの配布を行い、こどもたちが在宅で創作活動に取り組む支援を行いました。 川端康成文学館俳句コンクールでは、1,482件の学生応募がありました。 今後は、講座やワークショップの定員を見直すなど、事業再開の手法を検討します。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
		こども対象の芸術文化講座 参加者数	人	↗	179	0	150(R6)
		川端康成文学館俳句コンクール 学生応募者数	件	↗	1,559	1,482	1,600(R6)

1	取 組	3-3-4	歴史遺産の保存・継承				
2	主担当課	部名	教育総務部	課名	歴史文化財課	課長名	木下 典子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	多くの市民がキリシタン遺物や銅鐸鋳型など、本市の貴重な歴史遺産や文化財に親しむ機会が充実しています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		C	コロナ禍により、文化財資料館テーマ展及び史跡郡山宿本陣の公開は中止となり、入館者数が大きく落ち込みました。新型コロナウイルス感染症対策を取りつつキリシタン遺物史料館企画展「ザビエル・ストーリー」を開催し、メディアに取り上げられるなど一定の成果を上げることができました。歴史的建造物については、これまでに実施した調査成果をまとめた報告書(寺院編)を刊行しました。埋蔵文化財発掘調査により、出土した遺物の整理及び台帳作成は順調に進行しています。なお、新型コロナウイルス感染症対策を取りつつ、深見遺跡において現地説明会を開催しました。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
		文化財資料館テーマ展見学者数	人	↗	2,863	0	2,500人(R3)

1	まちの将来像	3	みんなの”楽しい”が見つかる文化のまち
2	施 策	3-3	文化芸術活動を支援し歴史と伝統を継承する

1	取 組	3-3-5	郷土への愛着心とブランド形成				
2	主担当課	部名	市民文化部	課名	文化振興課	課長名	今西 雅子
3	関係課						
4	目 標 (後期基本計画より)	“茨木市らしさ”を形成する大切な文化資源を今後も大切に保存・継承することで、“茨木らしさ”を大切にする気持ちや茨木市に対する愛着が育まれています。 また、多くの市民が文化のまちとしての誇りを持てるブランドが形成されており、市内外に情報が発信されています。					
5	R2年度末現在の取組の現状	取組の評価	評価理由(R2年度の取組内容と成果、影響を与えた外的な要因等)				
		C	新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館や展示・講座の中止の影響により、川端康成文学館の入館者数は昨年の8,810人から4,316人に減少しました。「川端康成が学んだ教育のまち茨木」のPRに向けて、「川端康成青春文学賞」の第2回作品募集を開始しました。 今後は、講座の定員を見直すほかwithコロナ時代の文学館運営について研究します。				
		a: 順調に進行 b: おおむね順調に進行 c: 進行にやや遅れ d: 進行に大幅な遅れ					
		参考指標	単位	めざす方向性	実績値		目標値(年度)
					R1年度	R2年度	
		川端康成文学館入場者数	人	↗	8,810	4,316	9,000(R6)
		川端康成文学館夏休み企画展入場者数	人	↗	1,024	529	1,000(R6)

4 学識経験者の意見

第三者による施策評価(外部評価)として、1～3に記載の市における評価結果について、学識経験者からご意見をいただきました。いただいたご意見は今後の市政運営の参考にさせていただきます。

1	学識経験者	高野山大学 文学部 特任教授 今西 幸蔵
2	意見等	・コロナ禍における施策の在り方として、計画の方向性を意識しているものの現状で遅滞があったことは事実であるが、仕方がないことであり、「C」評価はやむを得ない。市民の理解や納得が得られるものと思われる。しかし、厳しい現状を考慮すると総じて評価が少し厳しいと感じる。 ・施策の方向性に新しい担い手の発掘と育成があげられているが、子どもの在宅での創作活動支援などで成果が上がったかどうか注視したい。 ・提案公募型公益活動支援事業補助以外に官民協働につながる取組が見られなかった点が残念である。 ・取組3-3-3において、川端康成文学館俳句コンクールに1,500名近い学生応募があったことは良かった。この応募した人たちや、3-3-5の川端康成青春文学賞募集などの関連事業に参加した人たちを対象に、茨木のまちの文化と芸術を若い世代にアピールできる可能性があり、広報等についてさらなる検討をお願いしたい。